

WEEKEND VACATION HOME

三方から自然を堪能できる“スカイリビング”

M Residence Mishima-shi, Shizuoka

Architecture : STAR

Photographs : Nacása & Partners Text : I'm home.



上ノ静岡・三島にセカンドハウスとして計画した、鉄骨造、地上2階建てのM邸。開港に富士山を眺めながら浴に浸かれる2階のバスルーム。右手の開口(W3300×1700mm×H2400mm)を開けると半露天風呂のような雰囲気となり、至極の時間を味わえる。左ノ2階の南西側のコーナーに配したリビング(CH2400×2800mm)。ダイニングモックンとワンルームでつながり、眼下には豊かな木々が広がっているため、まるで森の中に浮かんでいるかのよう。

設計を手掛けた建築家の佐竹永太郎さんが家具や照明をセレクト。デンマーク・ellersenのアップリック座りのソファ「CHESS SOFA」に、レザー張りのパーソナルチェア「BKF CHAIR」。木の温もりが感じられるarflexのローテーブル「LINEA」をコーディネートし、シンプルなデザインでまどなながらも多様なテクスチャが響き合うインテリアとした。正面奥のフロアランプは、イタリア・FLOSの「TROMEO SOFT」。



右頁/2階の三方に配したデッキテラス(CH2550mm)。リビング&ダイニングキッチンとはガラスの開口(W4700+4400+1100mm×H2400mm)を介してつながり、床をフラットにすることで中と外の一体感が生まれた。正面南側のデッキテラスの奥行きは約3m、東高側の奥行きは約1.5mとし、奥行きに合わせて伸ばした軒によってアウトドアドライビングとしても活用できるスペースをつくり出した。敷地は園芸公園に指定されているため開口の面積制限があり、テレビの位置を考慮して奥のダイニングの裏にあたる場所を壁とした。この壁の中にある柱によって、デッキテラスの軒の荷重を支えている。上/リビングから見るとデッキテラス。デッキテラスからは南側に芦ノ湖や三島市内の街並みが見渡せる。絶好のロケーション。この景色をかりえるため、前面道路や電線的位置、階段の段差、造成の手筈などを考慮しながら、2階の高さを決めていった。デッキテラスの手すりはあえて外側に75度傾けることで、リビング&ダイニングキッチンからデッキテラスにかけてより広がりを感じられる。中央に設けた床から560mmのダブルレールの手すりは隠れ掛けることも可能で、家族やゲストと対峙して会話を楽しめる場所となった。

都心から車を走らせ、約2時間クアックスで
 くる芦ノ湖は、富士山を望める景勝地として
 知られる。周囲には多くのゴルフ場が並び、セ
 カンドハウスを求める人も多い。山道沿いに連
 なる別荘地を進むと、宙に浮いたかのような
 一軒の建物が現れた。オーナーは以前から所有し
 ていたこの土地に、趣味のゴルフを楽しむため
 のセカンドハウスを計画。建築家の佐竹水太郎
 さんに設計を依頼した。

M邸の敷地は南西側を道路に面し、北から南
 に向かって傾斜しているため高低差があるもの
 の、南側には芦ノ湖や三島市内の街並み、西側
 には富士山、東側にはゴルフ場の青々とした芝
 生を一望する雄大なパノラマが広がる。オー
 ナーの夢は、これらの景色を最大限に生かし、
 家族や友人たちとくつろげる住まい。そこで
 佐竹さんは、スカイリビングをテーマに設計
 をスタートした。

鉄骨造、地上2階建てのこの住まいは、1階
 にエンタランスとゲストルームを配してコンパ
 クトにまとめ、2階は居室ごとに景色を堪能で
 きるよう、西側に水まわり、東側に寝室、南側
 は三方を開口にしてデッキテラスで囲んだワン
 ルームのリビング&ダイニングキッチンとした。

M邸の最大の魅力は、三方に広がるパノラ
 マビュー。2階の廊下の先の扉を開けると、リビ
 ング越しに芦ノ湖と三島市内の街並みが見渡せ
 る。これは、1階からの階に上がる階段にあえ
 て開口を設けることにより、その先のリビン
 グに広がる景色がドラマチックに見えるように
 したもので、さらに佐竹さんは、リビング&ダイ
 ニングキッチンから地盤が望めるよう、約
 1500mmの敷地内にある南北約14mの高差差
 を生かしながら、前面道路や電線的位置、階段
 の段数のほか、造成の手筈などを含めて2階の
 高さを決めていった。

リビング&ダイニングキッチンを囲むデッキ
 テラスは、奥行き約3mの開放感のある広々と
 したスペースであるうえ、1階の床面積を最小
 限に抑えているため三方に迫り出したようなサ
 ーザインとなり、スカイリビングを強調。併せ
 て、2階の高さと共に緻密に計算した配置計画
 によって、デッキテラスからは景色を遮るもの

「1と2階へ続く」



上、2階の廊下(CH2400mm)から1階のエントランスと2階の奥のリビングを見通す。1階から2階に上がる階段にあえて開口を設けないことにより、その奥のリビングに広がる景色がドラマチックに見えるよう演出した。室内の壁は白の連続でまとめる一方、1階のエントランスと階段の床はウォールナット材のフローリング。廊下と氷まわりの床は白い磁器質タイル貼りとし、素材を貼り分けることで場を切り替えている。廊下を進み左手が居室、右手が倉庫。奥がトイレへとつながる。左、リビング&ダイニングキッチンの手前に設置する確定(CH2400mm)。東側の開口(W1800mm×H2400mm)を絞ることで、落ち着いた空気に、ゴルフ場の青々とした芝生を眺めることができ、デッキテラスに出ると、より雄大な景色を感じられる。ベッドはアクタスの「FB FLAT BED」、手前のデスクはMASTERWALの「ライトデスク」、イスはTIME & STYLEの「ZEPHER」。家具だけでなくベッドリネンも佐竹さんがセレクトした。



左、2階のダイニングから見たキッチン(CH2400mm)。リビングからの眺望を遮らないよう北側奥に配置した。コの字型のキッチンカウンター(W3200×H850mm×D650mm×H850mm、W2100mm×D680mm×H850mm)は、イタリア・Euromobilのもの。左手奥はパントリーにつながり、冷蔵庫やワインセラーを収納している。右手前がダイニング。下、ダイニングからリビングを見る。三方に設けた開口に加え、新り上げにした天井が垂直方向への広がりをもたらし、開放感のある空間に。開口の面積削減により設けた磁器質タイル貼りの壁にテレビを埋め込み、リビングやキッチンからも見ることができ、木の温もりのあるアンティークのダイニングテーブルにレザー張りのイスを合わせ、シックな雰囲気のなかに、テラスウェアが感じられるコーディネートにとまと



白でまとめた洗面室(CH2400mm)は清潔感あふれる空間で、流す洗面カウンター(W1750mm×D550mm×H650mm)の周囲の壁はバスルームと同様、グレーの磁器質タイル貼り。加えて、ミラー貼りのメディスンキャビネットにより、カウンターまわりが整理されている。洗面器は二人並んで使用できるよう、イタリア・CATALANOの幅1000mmのものをセレクト。タオルを掛けた右手の扉のなかに洗濯機を収めるなど、奥の扉を造らないよう工夫が凝らされている。タオルウォーマーはピーエス



2階の洗面室から見たバスルーム(CH2400mm)。開放的な空間となるよう、洗面室との間はガラスの扉に、床は、眼下から続く磁器質タイル貼り。バスタブも磁器質タイルで囲み、左手のカウンターと一体にデザインすることで、すっきりとした印象を与えている。右手側のデッキテラスからは富士山を望める。バスタブとシャワー水栓はTOTO

インテリアは、佐竹さんが家具を揃えてセレクト。M邸の主旨はあくまで美しい眺望であるため、室内の壁は白い塗壁で統一し、床はウォールナット材のフローリングやブラウンのカーペット敷き、白い磁器質タイル貼りなど、景色が引き立つ素材使いとした。それに合わせて、家具もシンプルをデザインのものやベシックなカラーを選びつつ、素材のテクスチャが感じられるものとした。そのほか、ベッドリネンからアメニティまでコーディネートしている。芦ノ湖や富士山などの雄大な景色を望みながら過ごすのんびりとした週末。M邸で過ごした時間が日々の疲れを癒し、明日への英気を整ってくれるに違いない。

東側の寝室からはゴルフ場の青々とした芝生、西側のバスルームからは富士山が間近に見える。居室ごとに景色が変わる。三方を囲んだデッキテラスは寝室やバスルームにもつながり、思い思いの場所でゆったりとした時間を過ごせる住まいとなった。

インテリアは、佐竹さんが家具を揃えてセレクト。M邸の主旨はあくまで美しい眺望であるため、室内の壁は白い塗壁で統一し、床はウォールナット材のフローリングやブラウンのカーペット敷き、白い磁器質タイル貼りなど、景色が引き立つ素材使いとした。それに合わせて、家具もシンプルをデザインのものやベシックなカラーを選びつつ、素材のテクスチャが感じられるものとした。そのほか、ベッドリネンからアメニティまでコーディネートしている。芦ノ湖や富士山などの雄大な景色を望みながら過ごすのんびりとした週末。M邸で過ごした時間が日々の疲れを癒し、明日への英気を整ってくれるに違いない。

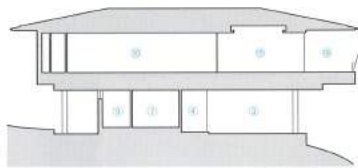
一方、敷地は国立公園に指定され開口の面積制限があったことから、ダイニングの一部を壁とすることで、磁器質タイル貼りとして壁内に柱を入れることで、デッキテラスの奥行きに合わせて伸ばした約3mの軒の荷重を支えている。また、セカンドハウスの場合、日常的にメンテナンスすることが難しいため、障壁ではなく、寄棟屋根として雨が室内に入らないよう配慮。併せて、湿度が高い場所であることから、不在時はタイマーで空調をオン・オフすることができ、色柄には排水設備付きの除湿機を設置して常時稼働できるようにしている。



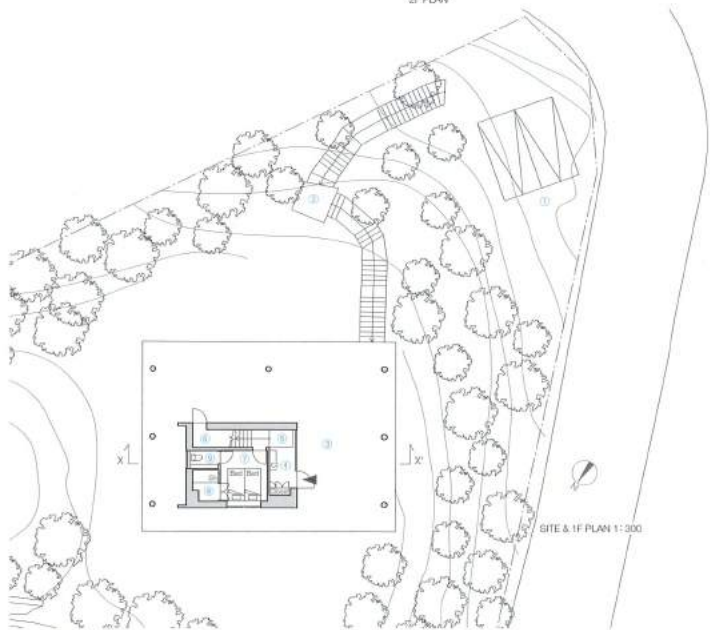
右側のバルコニーから見る海側景色。山間の別荘地は道
への距離は、1階をコンクリートに仕上げた床、壁紙として
おなじみは洋風デザインを好む。日本に暮らすの気持、日
常的な生活スタイルをもちに示され、だが、毎朝目覚めは
木漏れ日として、両手に空気に入る風のように。



2F PLAN



X-X' SECTION 1:300



SITE & 1F PLAN 1:300

DATA

構造と規模 / S造 地上2階建て
敷地面積 / 1466.39㎡
建築面積 / 167.18㎡
床面積 / 1階32.19㎡ 2階221.76㎡ 合計253.95㎡
家族構成 / 夫 (50代) 妻 (40代) 長男 (5歳)

※設計データは261頁に掲載

- ① PARKING
- ② APPROACH
- ③ PORCH
- ④ ENTRANCE
- ⑤ HALL
- ⑥ STORAGE
- ⑦ GUEST ROOM
- ⑧ WALK-IN CLOSET
- ⑨ TOILET
- ⑩ COFFEE ROOM
- ⑪ BED ROOM
- ⑫ POWDER ROOM
- ⑬ BATH ROOM
- ⑭ BUTLERY
- ⑮ DINING
- ⑯ KITCHEN
- ⑰ BREAK ROOM
- ⑱ PANTRY
- ⑳ DECK TERRACE



右 / 1階のエントランス(CH2550mm)は、左手の
ポーチに面する南側をFIX窓 (W3500mm×
H2550mm)として明るい空間に仕上げた。床は
ポーチと同じ磁器質タイルを使用。正面に造作し
たクローゼット (W1550mm×D450mm×H2550
mm)は、オーナーの要望で床から天井まであるデザ
インに。右手に造作したシューズボックスは、床か
ら下端の高さ700mmに設けることで、シューズ
に靴を出入れできる。手前右は階段につながる
下 / ポーチ (CH2850mm)からエントランスを
見る。4.7m×6.25mの1階の上に、11.2m×
20.5mの2階を載せ、四方に配した7本の柱で荷
重を支えている。手前は、アプローチ

